

# こやブランケット

## ニュース2024 vol.23 春号

弊社HID  
商品の詳細は  
QRコードをチェック!



米阪パイル織物(株)  
和歌山県橋本市神野々 720  
TEL : 0736-32-1404  
E-mail : info@yyypile.com  
URL : <https://www.yyypile.com/>  
営業時間 : 8:00~17:00 (土日祝除く)



# チーム力で乗り切ろう!



2024年の幕開けは、能登半島の地震で始まり不穏な幕開けとなりました。4月に入っては、隣国の台湾で震度7の地震が発生し、近年の異常気象といい、不可抗力とも言える自然災害が後を絶ちません。災害は一瞬で発生しますが、復興は何年も何十年もかかり、被災者の心の傷は一生のものとなります。また、機能的表示食品として小林製菓の紅麴を摂取した方が複数人死亡、100人以上が入院する状況が発表されました。健康増進を期待して摂取したサプリメントにより、不健康になることは誰にも想像し得なかったことです。予期せぬ成分がどのように混入したのか説明が急がれます。世界に目を向けると、人同士の紛争が収まりません。ウクライナやガザ地区の映像を見る度にうんざりする気持ちは皆同じはずです。特にガザ地区の飢餓状況はひどく、その被害者である子どもや赤ちゃんが食料不足で骨と皮になった極限の映像には心痛の思いです。これらの被災された方たちに心よりお見舞い申し上げます。ドジャースに移籍し、オープン戦絶好調だった大谷選手が開幕直後の通訳による巨額の違法賭博問題が発覚し、事件に巻き込まれ、不調気味に陥りました。しかしながら、最も遅い開幕9試合目でのホームランを機に、新しく得た伴侶、チームメイトや温かいファンの支えと持ち前の明るさで復活を期待します。チーム力で乗り切れ!



## 花粉症の方へ

カボスやユズ、ダイダイと並ぶ「じゃばら」って香酸柑橘類って聞いたことありますか? 紀伊半島の山奥、和歌山県北山村に原生していました。昭和46年、村民が子供の頃から慣れ親しんだ味を広めようと立ち上がったことが歴史のスタートです。名前は「邪(気)を払う」ことに由来し、村では昔から天然食酢として珍重され、正月料理には欠かせない縁起ものでした。村内で唯一一本残ったじゃばらの木の持ち主である村民が、特産品化を呼びかけたのです。昭和47年、研究機関での品種鑑定を行った結果、じゃばらは国内はもとより世界に類のない全く新しい品種であることが判明しました。ドリンクやぼん酢、ジャムなど次々と加工品を開発、販売を始めました。順調かと思われたじゃばら事業ですが、そもそも知名度も無ければ、自治体である北山村には販売のノウハウもありませんでした。売上は伸びず、毎年赤字。そんな中、毎年じゃばらを20キロ単位で何度も買い求める不思議なお客様がいました。お客様にその使用方法について尋ねたところ、「子供が受験なので花粉症の薬を飲むと眠くなるのでじゃばらを薬代わりに毎日1個ずつ朝晩搾って飲んで」と、驚いた回答がありました。これをきっかけに1,000人に及ぶモニター実験、岐阜大学の花粉症に対する効果が学会で発表されるなどで、昭和54年の種苗登録から20年以上経過し、ようやく日の目をみる事ができたそう。このように紆余曲折を経て現在に至っている模様。花粉症で悩んでおられる方は、一度試してみても?



## 意外な日本

今や世界中から人が日本にやって来ています。ですが、日本人には当たり前と思っていることが、意外に高く評価されることがよくあり、日本の良さを改めて知る機会となります。一例を挙げると、①電車やバスが時間通りに来てくれること。当たり前なのですが、海外ではそうではないらしい。②マナーが良い。たとえ被災地でも、飢えた人々が横入りせずきちんと一列に並んで配給の品を受け取る姿。電車等の内外で整列したり、リュックを前に抱えたり、迷惑にならないよう配慮している姿。③トイレが綺麗。温水洗浄便座の普及率は、日本は高い(一般家庭80%以上)。米国(10%未満)、中国(5%未満)。④物価が安い。⑤食の品質。和食は2013年にユネスコ無形文化遺産に登録されました。寿司や刺身などの生魚を日常的に食べる文化は日本にしかありません。⑥治安が良い。外国では、怖くて夜に一人で外出できないようです。⑦自動販売機が多い。外国では故障が多く、盗難等乱暴されることも多い。⑧コンビニが充実。数が多いし、品数も豊富。一方で、①現金のみの店が多い、②英語が通じない、③wi-fi環境が整備されていない施設が多い等の不満もあるようです。

